

**発表題目**  
**精神医学の科学性について**

氏名 秀瀬 真輔 (Hidese Shinsuke)

所属 国立精神・神経医療研究センター神経研究所

---

本文

精神医学は、身体医学と対比される特殊性を持ち、一般にその科学性が疑義されやすい。今回、現代精神医学のトピックを概観することで、その科学性について改めて考える。

精神の構成単位である神経ネットワークは、多数の並列処理が結合する複雑系である。その系では、初期条件の相違が、全体に影響を及ぼしながら、活動パターンが一回性に生成されていく。意識は、遙かに高い処理速度と情報量を持つ無意識によって、支えられているが、その主体性は曖昧で時に誤謬に基づく。詰まる所、精神現象は脳活動の創発性によるため、その要素を超えた性質を持ち、科学的還元ができない。

精神科臨床で記述されてきた精神症候は、人間によって了解されるもので、元より因果的に説明されるものではなかった。個人個人が異なる患者の最高次機能と考えられる人間精神の多様性は、基礎科学的論理で法則性を見出すのが極めて困難である。精神医学においては、現代科学の主流である量的研究のみならず、個別性の観点から仔細な観察を行う質的研究が重要であり続けると予見される。